

日本濾水機工業

不変と革新

～長寿経営に向けて～

パート3 絆編 106

きるようになった。そこから、医薬に使う水、災害用飲料水の濾過、水処理プラントと事業を広げていった（橋本美奈子社長）という歩みだ。

精密濾過・製薬用水プラントエンジニアリングをメインとする日本濾水機工業（横浜市南区井土ヶ谷中町91）は今年創業100周年を迎える。「100年前、衛生環境が悪かった大正時代、初代社長が珪藻土を原料としたセラミックフィルターの開発に成功し、高純度のキレイな水を精製で



現在75人の同社のライバル企業は全て大手企業。その中で存在感を示し続けてきたのは「100年間コソコソとお客さまの『困った』を一緒に悩んで解決してきたから」だと橋本社長は力を込める。同社に求められる水処理は厳しく高度な品質を求められる。当然技術力も必要だが「処理前の原水の水質は、お客さまによって全く違う。100のお客さまがいたら100の原水。それぞれ悩みは違う。異なる『困りごと』に100年間コソコソと向き合い解決し続けてきたところが、最大の強みだ」

（同）という。

それを支えてきたのが現場の営業力だ。業界未経験の中途入社社員が多数活躍しているという。例えば前職の電気技術関係の設計から、顧客の営業スタッフの連携も重要

顧客の「困りごと」共に解決

ニーズに直接触れ合う同社の営業に転職して実力を発揮、といったケースが多数見られる。求められるものが多様で、多くの製品が「一品もの」であるだけに、人材や会社組織の構成についても多様性を重視している。

また企業理念の一つとして「トータル・テクノロジー」を掲げ、ハードからソフトまで一貫したサービスを機械工学、化学工学、微生物学、電子工学までのあらゆる総合技術で対応する。営業・技術のスタッフもさまざまな知識で、顧客にとっての「技術アドバイザー」的な活躍を求められている。

100周年の節目を前にした橋本社長の「100年近く独立独歩で独自の技術を持ち存続してきた。200年続く会社になりたい」との意気込みは、こうした社員一人ひとりの総合力に裏打ちされる。（木曜日に掲載）

企業概要

1918年（大7）、素焼き濾過筒「セラポア」の製造方法を発明し、生産・販売を始めたのが創業。濾過装置の製造販売や製薬用水、とりわけ高度な技術が要求される注射用水製造プラントのエンジニアリング業務まで、精密濾過技術をベースに事業を拡大してきた。災害時用の移動式濾過機なども内外で注目されている。